



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

芸術鑑賞会

6月16日(木)に芸術鑑賞会を行いました。令和2年度に行くことを計画していたものですが、2年間の延期を経ての実施となった、JOY SWING COMPANYのジャズの生演奏の鑑賞会です。低学年・中学年・高学年に分かれて、分散での参加となりました。どの学年も、演奏を静かに聴いたり、それぞれの楽器の紹介の演奏に盛り上がりたりしながら鑑賞していました。また、校歌をジャズで演奏してくださり、いつもと異なる校歌に聴き入っていました。アンコールでは、ディズニーのメドレーの演奏があり、盛り上がりました。直接自分の目で見て、耳で聴くことができたことは、子供たちの心に響いていったことと思います。JOY SWING COMPANYの方々から、演奏してとても気持ちよかったし、楽しかったという言葉いただきました。子供たちの演奏を聴く態度が素晴らしかったこと、きらきらした表情で演奏を楽しんでくれたこと等から、たくさんの力をもらえたとお話されていました。素晴らしい時間となりました。

原因論と目的論

アドラー心理学という言葉が最近よく耳にします。アルフレッド・アドラーが築きあげた心理学です。アドラーは、目的論を大切にしていると様々な書物に記されています。

課題を解決したい時に、どこかに悪いところ(原因)があるから、それを直せばいいと考える原因論へのアプローチに私たちは慣れているが、意識を向けたところが強化される

と考えたアドラーは、悪いところの逆を指摘すると意識がそこに向き、悪いところの逆の発生率が高まるという目的論に目を向けた。

事例：食卓をちらかす子供

(原因論) ちらかすたびに「やめなさい」と叱ったり、「自分で片付けなさい」と強く言ったりしていたら返って反発し、ひどくなった。

→子供にやる気が起きていない。

(目的論) 外で遊び疲れた時など、ごくまれに(10回に1回程度)静かに食卓についていることがあった。そこで、「〇〇ちゃんありがとう。静かに座って食べてくれると、ママもパパもゆっくり美味しく食べられるよ。」と伝えるようにした。

→子供も静かに食卓につくことが増えていった。

子供たちと関わる時に、原因論でなく目的論で関わることを意識していくと、子供たちのよりよい育ちを促していけるのではないかと思います。できないところをや悪いところを見つけて直させていくことより、増やしたいところを見つけて指摘していくことで、子供たち自身が安心して自分自身を受け止めることができるようになるのではないかと考えます。大人である私たちでさえ、原因論で迫られれば苦しくなってきました。子供たちと向き合う時に、どこに意識を向けて、どんな話し方で接していけばいいのか常に考えていくことが大切だと思います。

yes but (それいいね。けれど、ここはだめ) でなく、yes and (それいいね。そして、これをしたらさらにいいね) で常に話す

*太字斜字は、下記より引用

「幸せに生きる方法：平本あきお・前野隆司 著」